

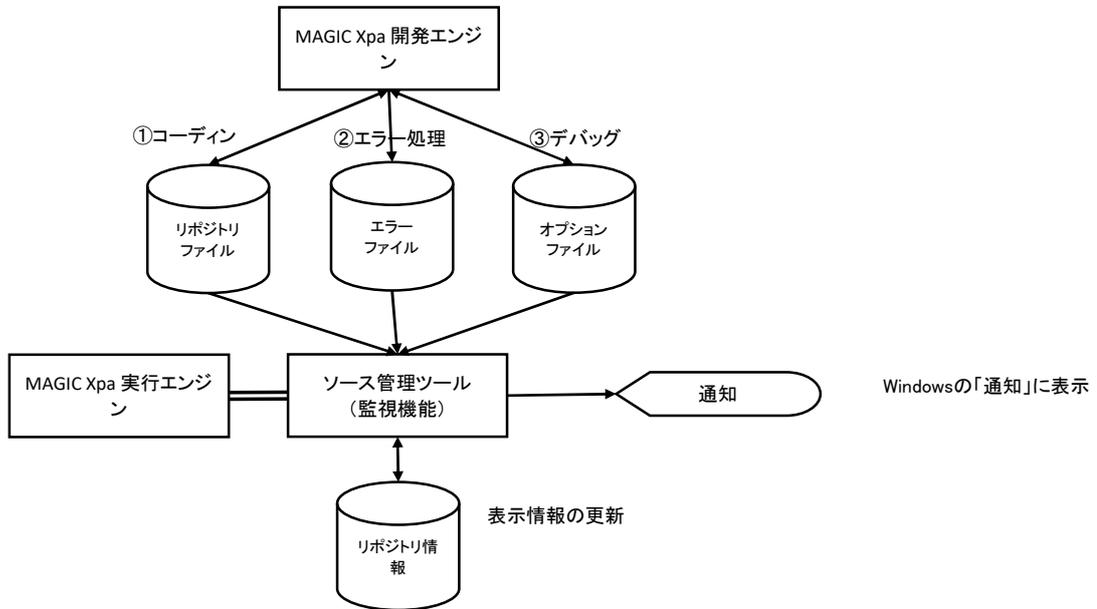
Ver0.96新機能の紹介

① ファイル監視機能

開発作業を支援する機能として、下記のファイル監視機能を実装しています。  
検出時は、Windowsの「通知」に表示します。

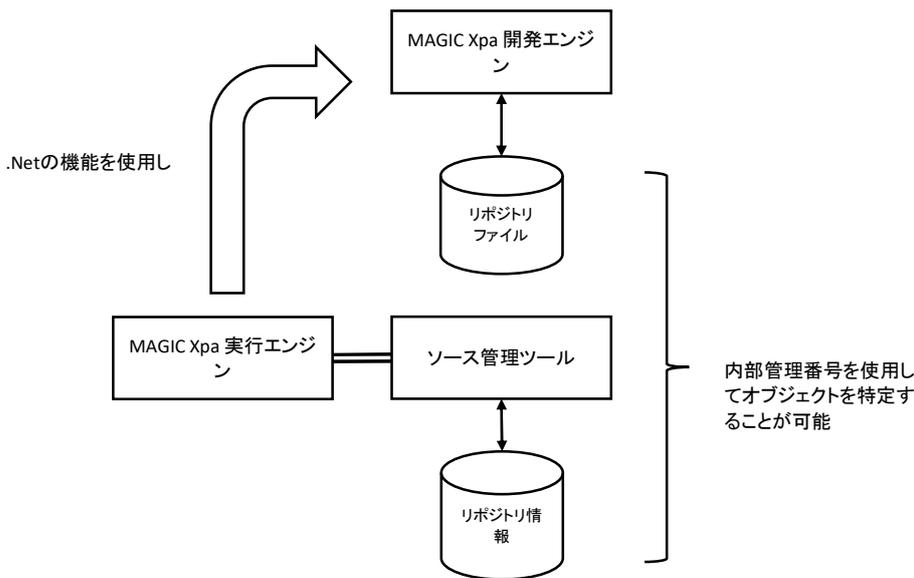
- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1) MGERROR.LOG の監視</li> <li>2) ソースファイルの更新監視             <ul style="list-style-type: none"> <li>a) リポジトリファイル</li> <li>b) 個別プログラムソースファイル</li> <li>c) オプションファイル(「プロジェクト名.opt」ファイル)</li> </ul> </li> </ul> | <p>エラー発生時刻とその主要なメッセージ</p> <p>モデル、データ、プログラム、ヘルプ、権利、メニュー、コンポーネント等のリポジトリファイルの更新<br/>プログラム番号1から始まる個別のプログラムソースファイルの更新<br/>ブレークポイント、ウォッチリスト等の情報を管理するファイルの更新</p> |
|---|---|

リポジトリ情報の変更を検出した場合は、取得した情報によりツールの表示内容を更新します。



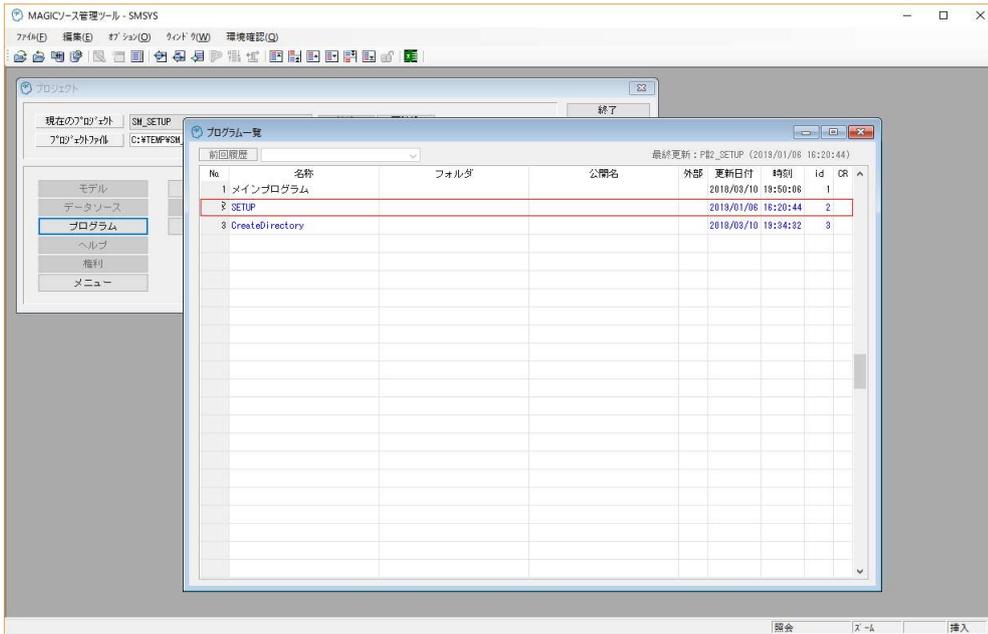
② 「開発版へ」機能

表示中のオブジェクトを開発版で開く機能を実装しました。  
(「Upgrade Manager」の「Goto object in the studio」イベントで実装されているソースを参考にさせていただきました)

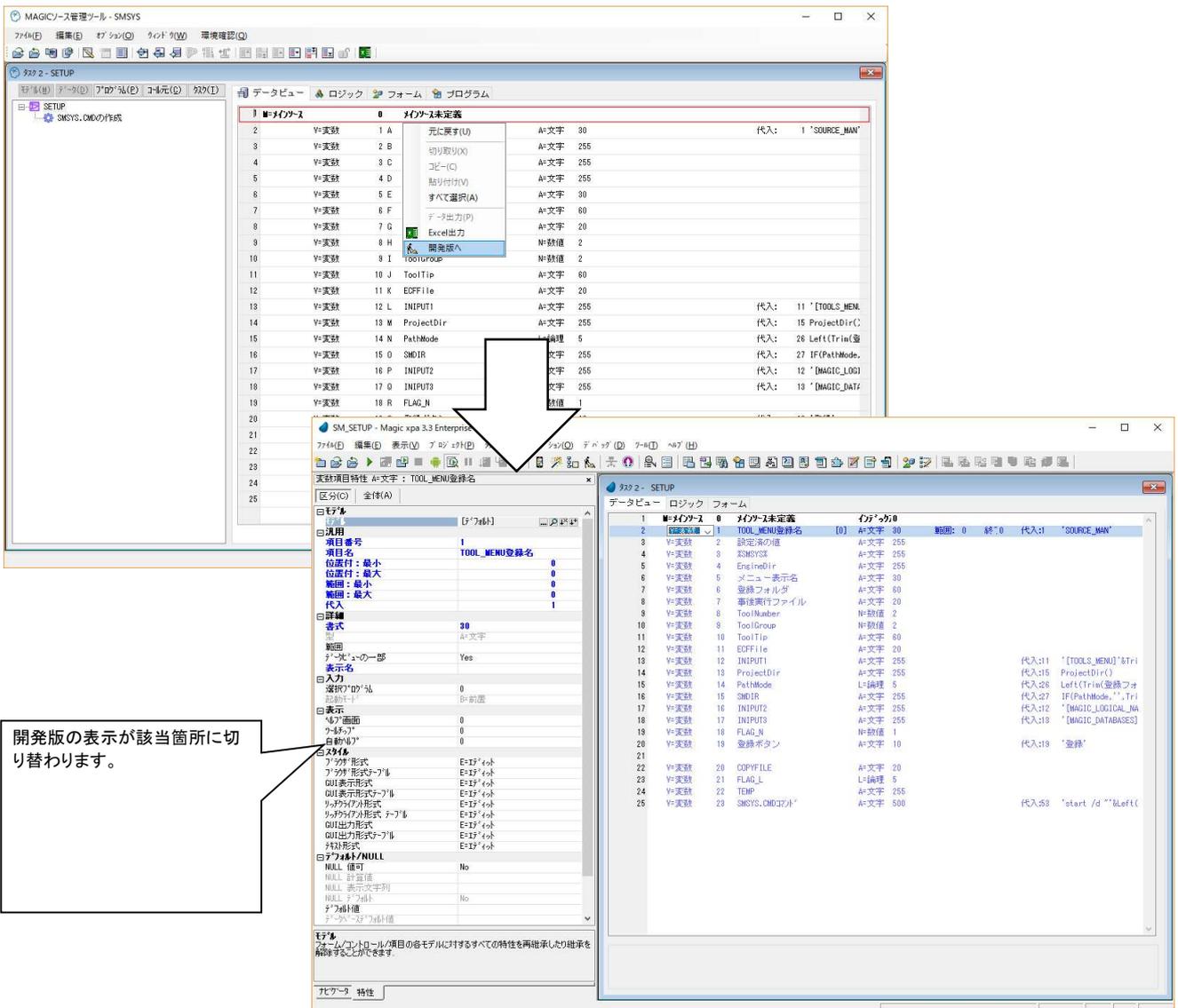


<実行例①「開発版へ」機能>

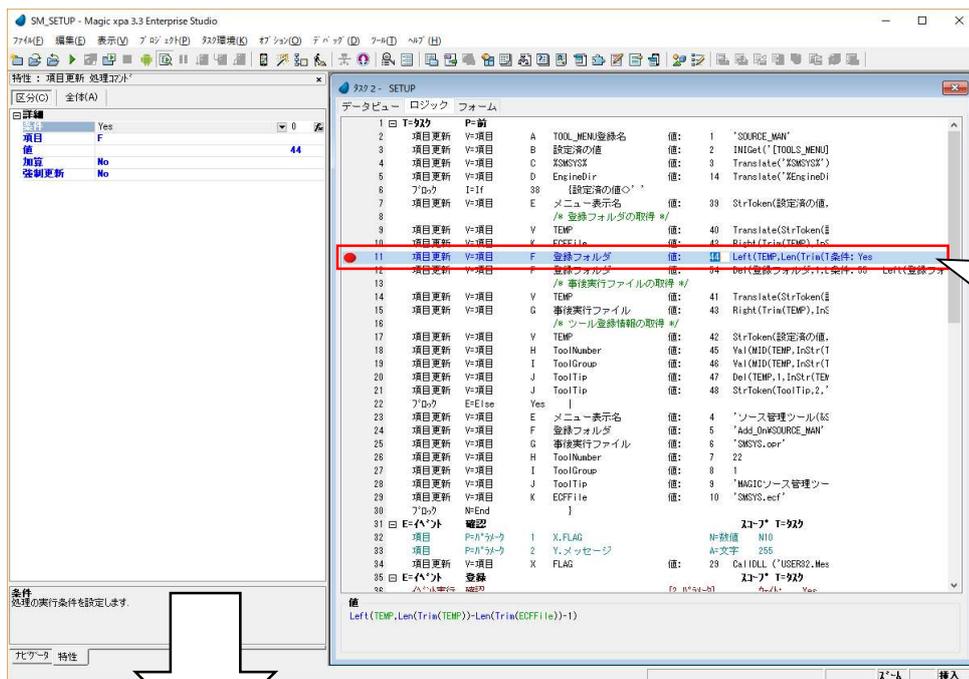
#2の「SEUP」プログラムにカーソルを合わせ「F5:ズーム」します。



データビューが表示されます。タブを切り替えることにより、ロジック、フォーム等に切り替え可能です。コンテキストメニューから「開発版へ」を選択すると、並行して起動している開発版の画面が該当箇所に切り替わります。



<実行例②「ファイル更新監視」機能>



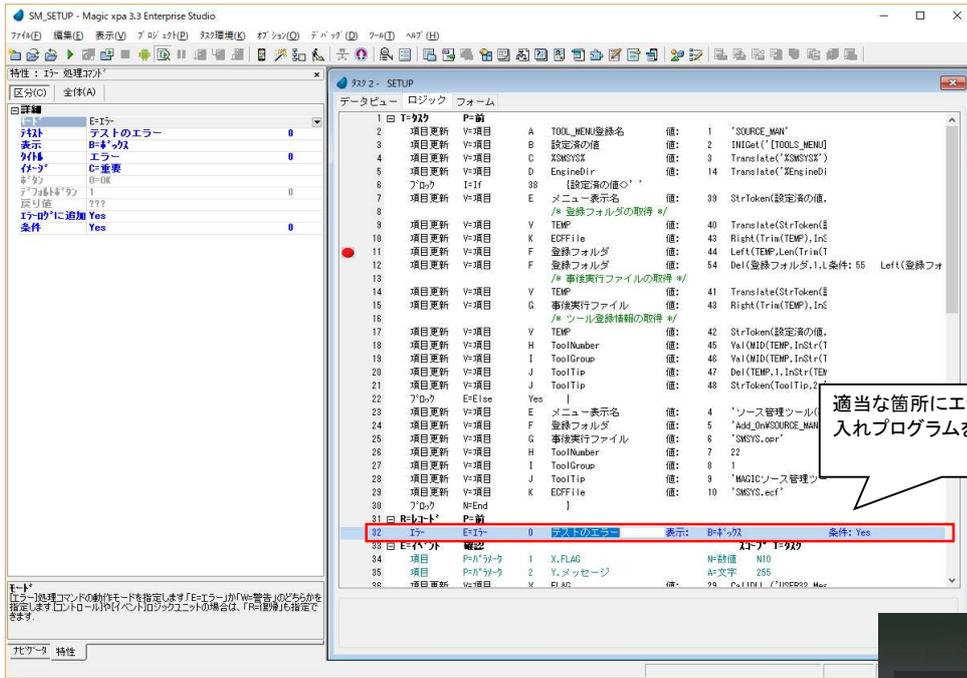
デバッグ機能を有効にした状態で適当な箇所にブレークポイントを設定します。



オプションファイル(プロジェクトフォルダ内の「プロジェクト名」.optファイル)の更新を検出して通知がポップアップします。



<実行例③ 「エラー監視」「ソース更新監視」機能>



プログラムの変更を検知

